

授業科目名	科目NO.	LECRS3202	授業コード	L243020010	
観光文化論 Lecture on Tourism in Cultural Context			単位数	2単位	
授業形態	担当教員名				
講義	天野 景太				

●科目の主題

本科目では、文化資源の社会的運用のあり方に関して扱う科目群のうち、観光領域におけるあり方を中心に講義する科目である。観光を文化現象として捉え、現代観光の文化的な特質について、関西を中心とした国内外のさまざまな事例に基づきながら考察する。具体的には、「現代日本・大阪におけるニューツーリズムの観光文化論」をテーマとする。観光文化とは、観光者や観光事業者といった主体が紡ぎ出す観光経験や観光形態の諸相、あるいは、観光を通じた文化の交流等により生成、展開していく地域文化の諸相のことで、場所や時代によってさまざまな展開をみせている。特に近年においては、「見物」や「遊楽」といった昔ながらの観光スタイルだけではなく、各地で体験型観光や地域独自の魅力の発掘、持続可能な観光の推進などに象徴されるような新しい観光文化（ニューツーリズム）のあり方が模索されている。本科目では、これらの文化的な特質の解説を通じて、観光文化のダイナミズムに関して検討する。

●到達目標

授業の内容を自らの身近な地域において展開する具体的な観光文化の考察に敷衍することで、観光文化の多様性に関して理解を深めることができる。また、現在政府（観光庁）の施策としても「ニュー・ツーリズム創出・流通促進事業」が推進されるようになっているが、それらの批判的検討を含め、観光を一つの文化現象として総合的、相対的に捉える視点を獲得できる。さらに、文化ガイドなど、地域における観光文化の担い手として実際に活躍するための素養を身につけることができる。また、観光における文化変容のダイナミズムを捉えるセンスを養うことができる。

●授業内容・授業計画

- 第1回: イントロダクション～現代における観光文化の諸相と変容
- 第2回: 飽くなき食文化の探求～フードツーリズム
- 第3回: “ストレス解消”から“ウェルネス”の探求へ～ヘルスツーリズム
- 第4回: 大阪・関西万博の観光的インパクト～イベントツーリズム
- 第5回: ものがたりの足跡を訪ねる～コンテンツツーリズム
- 第6回: 「大人の社会科見学」は浸透するのか？～インダストリアルツーリズム
- 第7回: 国際観光地としての日本橋オタロード～サブカルチャーツーリズム
- 第8回: 昭和の追憶と郷愁の彼方へ～レトロツーリズム
- 第9回: 千社詣からドラクエウォークまで～ゲーミングツーリズム
- 第10回: 被災記憶の継承から復興への願いをかたちに～ダーク／ボランティアツーリズム
- 第11回: 観光行動が「エコ活動」となるのか？～エコツーリズム【1】
- 第12回: 観光振興と環境保護は両立できるのか？～エコツーリズム【2】
- 第13回: 「廃」なるものの固有価値を求めて～ヘリテージツーリズム
- 第14回: 観光を通じた都市と農村の交流～グリーン／ブルーツーリズム

●事前・事後学習の内容

全回を通じて、ニュースなどを通じて日頃から講義内容に関連する観光に関する動向についての情報収集を行ってほしい。その上で事後学習として、授業内容を参考に自身で構想するニューツーリズムの企画や、実施の可能性についてのシミュレーションが求められる。

●評価方法

毎回、講義される観光文化のあり方について、的確に理解し、具体例を想起するとともに考察出来ているのかが評価のポイントであり、それが出来ることが単位取得の最低条件である。毎回の授業の最後に、コミュニケーションペーパーに授業内容を受けての自らの考察を記してもらいが、そのコミュニケーションペーパーへの回答内容（30%）と、中間レポート（35%）、期末試験（35%）により評価する。ただし、コミュニケーションペーパーへの回答数が学期を通じて10回未満の場合、中間レポートや期末試験の評定にかかわらず、原則としてF評価となる。なお、授業開始後30分

以上遅刻した場合、コミュニケーションペーパーの回答権を失う。

●**受講生へのコメント**

本科目は文学資源コースの選択必修科目であると同時に、大阪市立大学文学部履修証明プログラム「大阪文化ガイド＋講座」の必修科目となっている。この意味で、大阪を中心とした関西の事例を取り上げ、身近な地域における今後の観光文化のあり方について考えてもらえることを意識しつつ講義を展開する。また授業中に写真や映像などのビジュアルな資料を豊富に呈示する。板書はほとんど行わないので、講義内容をリアルタイムに考察、整理しながらメモをとっていくことが求められる。受講者は単に授業の内容を記憶するだけではなく、授業の内容と自分の過去の観光体験等とをリンクさせつつ、理解・考察する姿勢をもって授業に臨んでもらいたい。また、観光や異文化コミュニケーションに関してより深く探求したい学生は、観光現象に関してより複眼的な視野を獲得する意味で「文化資源特論Ⅰ」「日本文化発信のための英語」、全学共通教育の「観光研究入門」「観光と文化」「地域実践演習」などを並行履修することを推奨する。

●**参考文献・教材**

安福恵美子・天野景太『都市・地域観光の新たな展開』古今書院、2020年。ほか、毎回教場にてプリントを配布する。参考文献は、必要に応じて授業中に紹介する。また、観光文化に関するup to dateな話題は、新聞やインターネット等を通じて入手されたい。

授業科目名	科目NO.	LXGEN3206	授業コード	L200400010	
観光文化実践演習 Seminar and Practice in Culture and Tourism			単位数	2単位	
授業形態	担当教員名				
演習	天野 景太				

●科目の主題

履修者各自の地元、あるいは大阪市およびその周辺地域を対象として、インタープリテーション（ガイド）の企画と実践、ガイドマップの作成、観光モデルコースのデザイン、などをワークショップ形式で行う。出来上がった成果物は、ボランティアガイドの方々にとっては、各自の実践活動に役立てていただけるようなものを目指す。履修者の人数により、ガイドマップづくりやモデルコースづくりに関しては、数人のグループ単位で実施する可能性もある。

●到達目標

着地型観光の企画、フィールドワーク、観光メディアの編集、観光モデルコースのデザインなどの総合的な実践を通じて、地域資源の発掘、魅力の洗い出し、他者への呈示の工夫など、自身が観光文化の担い手として活躍できるための基礎的な素養を体得していただくことを目指すものである。そのため、観光・旅行に興味があったり、観光業界への就職を目指す学生のみならず、文化の発信、異文化コミュニケーション、インスタグラム、まち歩き、イベントの企画や運営、広告などに興味を持つ学生の履修も歓迎する。

●授業内容・授業計画

授業は3つのパートに分けて行われる。第一に、地域資源の発掘と呈示の実践として、地元を歩きその地域の文化的実態を観察、記録、さらにそれらの魅力を観光客などの訪問者に呈示するための工夫を考え、発表する。第二に、観光ガイドマップの作成の実践として、各自のなじみのある地域をプリントメディアに表現することで、地域文化を呈示する工夫を考え、発表する。第三に、観光モデルコースの企画の実践として、多様な文化的背景をもつ観光客に対して、周遊旅行やまち歩きのプロデュースを想定したプランをデザイン、発表する。また、履修者の関心に応じて、旅行会社のツアープロデューサーなど観光実践の第一線で活躍されている方をゲストスピーカーとして招聘することも検討したい。

第1回: ガイダンス

第2回: 観光文化を創造する・地域文化のリアリティへの感応力を磨く！（講義形式）

第3回: 観光的魅力の洗い出しから文化の呈示の実際（講義形式）

第4回: フィールドノートから地域文化の呈示へ（実習）

第5回: インタープリテーション（ガイド）の実践(1)（発表と討論）

第6回: インタープリテーション（ガイド）の実践(2)（発表と討論）

第7回: 観光メディアをデザインする～絵地図をつくる（講義形式）

第8回: ガイドマップづくり（実習）

第9回: ガイドマップのプレゼンテーション(1)（発表と討論）

第10回: ガイドマップのプレゼンテーション(2)（発表と討論）

第11回: 観光行動をデザインする～まち歩きのデザイン（講義形式）

第12回: 観光モデルコースとまち歩きツアーの企画（実習）

第13回: 観光モデルコースとまち歩きツアーの企画(1)（発表と討論）

第14回: 観光モデルコースとまち歩きツアーの企画(2)（発表と討論）

●事前・事後学習の内容

授業内容に示したとおり、授業全体を通じて、最低3回の成果発表が求められます。そのための現地取材を含む下準備、資料の作成、発表後に得られた知見に基づく事後の修正やさらなる完成度の向上が、主たる学習内容である。

●評価方法

各パートにおける発表と討論を中心に評価する。具体的には、実習の成果および発表（70%）、討論への参加度（30%）に関して加点方式で評価を行う。ただし、出席率が70%を下回った場合、3つのパートにすべてにおいて発表がなされ

なかった場合、原則としてF評価となる可能性がある。

●**受講生へのコメント**

授業時間は、主に各自の成果物の発表と討論の場となります。そのため、ガイドマップやガイド資料などの制作のための現地取材、観光パンフレットなど既存のメディアのレビューなど、授業時間外に於ける各自の活動が多くウェイトを占める。そのための相応の時間的、場合によっては金銭的な負担が発生することを了解の上、履修を検討されたい。

*「大阪文化ガイド+講座」受講者の方へ：本科目と他の科目との関係ですが、「大阪の地域・文化実践演習」や「歴史のなかの大阪」などの科目の受講を通じて得られた個々の大阪の歴史や文化に関する知識を、第一に観光プロデューサーという視点から捉え直して見ること、第二に個々の観光スポット（点）をマップやトラベルプランに展開し、線や面として表現することが（本科目の）眼目です。

●**参考文献・教材**

観光文化の呈示の実践に関する参考文献として、西村幸夫編著『観光まちづくり：まち自慢からはじまる地域マネジメント』学芸出版社、などがある。その他参考文献は授業時に紹介する。

授業科目名	科目NO.	LXGEN3224	授業コード	L201070010
大阪の地域・文化実践演習 Seminar and Practice for Regional Culture in Osaka			単位数	2単位
授業形態	担当教員名			
演習	菅原 真弓			

●科目の主題

地域間競争の時代といわれる現代において、地域に存在する有形・無形の資産（＝地域の「文化資源」）を(再)発見・(再)評価し、それらを「まちの魅力」としていかに活用・発信していくかが、都市の活性化にあたって重要な課題となっている。また、その際には、あわせて行政、地元企業・団体、住民など、地区に関わる様々なアクターによる多種多様な取り組みが、新たな都市居住の魅力を創出し、地域の再生・発展に寄与しうるポテンシャルを有しており、そうしたアクターの参加と協働が鍵を担っていることもいうまでもない。この授業は、大阪市とその周辺地域をフィールドとして、地域文化・地域資源を再発見し、それをまちづくりにどう活かしていくかを、講義・現地実習を通じて実践的に学ぶものである。

担当は菅原真弓（文化資源学、美術史学：講義担当）と天野景太（観光学：現地実習担当）となる。

●到達目標

江戸から明治期にかけてビジュアルとして記録された「場」を実際に巡りながら、①地域の現状把握、②フィールドワークによる地域文化・地域資源の再発見、③受講生相互の意見交換を行う。こうしたプロセスを通じて大阪に存在する有形・無形の地域資産（文化資源）の活用方法を考え、さらにはそれらのまちづくりや集客事業への展開を図りながら、地区の活性化に対する提言を行うことを目的とする。

素材とするビジュアルとしては、寛政8～10(1796～98)年に出版された『摂津名所図会』（秋里籬島著、全九巻）に加え、幕末から明治期にかけて刊行された二種の浮世絵版画シリーズ「浪花百景」とする。

●授業内容・授業計画

教室での講義形式の授業と、毎月1回土曜に行う現地実習によって構成。現地実習は毎回3時間程度を予定しているので、授業2コマ分としてカウントする。講義担当は菅原、現地実習担当は天野である。

第一回 4/8 ガイダンス 本演習の進め方

第二回、第三回 現地実習(1)天六～毛馬 ※4月中の土曜日、日程相談

第四回 5/6 講義(1)地域資源の再発見

第五回 5/13 講義(2)描かれた大坂1ー『摂津名所図会』とこれを基にした絵画

第六回、第七回 現地実習(2)梅田～中崎町 ※5月中の土曜日、日程相談

第八回 6/3 講義(3)描かれた大坂2ー二種の「浪花百景」

第九回 6/10 講義(4)地域に遺された文化資源とその意義

第十回、第十一回 現地実習(3)九条～川口居留地 ※6月中の土曜日、日程相談

第十二回、第十三回 現地実習(4)住吉大社～帝塚山 ※7月中の土曜日、日程相談

第十四回 7/22 まとめ・成果発表会

●事前・事後学習の内容

各回授業終了時に、コミュニケーション・カードを提出してもらうとともに、次回の講義内容について3～4個のキーワードを挙げて予告するので、必ず事前にそれらの内容を確認し、授業に臨むこと。また、現地実習の実施後には当日観察したことやそれに関連した学習内容をまとめたレポートを提出してもらうこととしている。したがって、授業終了後には、各自講義の要点や現地観察の内容を整理するなど、復習を欠かさないようにすること。

●評価方法

コミュニケーション・カードもしくは現地実習後のレポート提出による授業参加意欲の状況(30%)、成果発表会におけるプレゼン内容（意欲も含む）30%、期末レポート(40%)により評価する。なお期末レポートは、成果発表会のプレゼン内容に基づくものとする。

●受講生へのコメント

本科目は、文学部共通の専門科目であると同時に、大阪市立大学文学部履修証明プログラム「大阪文化ガイド+講座」の選択科目となっている。また、週末に現地実習を実施するため、この科目は日程が変則的となるため履修の際には注意すること。なお、演習科目のため、履修希望者多数の場合は抽選となる。

●参考文献・教材

テキストはなし。参考文献等については、授業内で適宜紹介する。

授業科目名	科目NO.	LXGEN3223	授業コード	L201040010
日本文化発信のための英語 English for Guiding Japanese Culture			単位数	2単位
授業形態	担当教員名			
実習	奥西 佐智子			

●科目の主題

授業形態は基本対面としますが、遠隔も取り入れる場合があります。(予定)
 諸外国と日本の文化を比較し、日本の魅力をどのように英語で伝えるかを考えます。
 講義内容を参考にし、古墳、日本庭園、住吉大社、四天王寺、大阪城(全5回)のプレゼンテーションを英語でもらいます。
 プレゼンテーションは、各回担当箇所を決め、一人5分以内で発表をしてもらいます。
 上記の観光箇所を通して、日本文化を紹介する際の話の膨らませ方を学びます。
 <受講に必要な英語力について>
 *英検2級程度が望ましい。
 *全国通訳案内士資格保持者は、受講対象外とします。

●到達目標

大阪の魅力を、日本の文化、伝統、歴史などを通して、基礎英語で紹介できるよう、各々のガイディングスタイルを構築するサポートをします。
 日本文化を発信する事は、日本人の精神、生活、生き様を理解してもらう事でもあります。
 講義では、各内容を深く掘り下げるよりも、要点をわかりやすい英語で表現することに重点を置きます。
 日本事情についての豆知識や、使える優しい英語表現も学びます。
 英語のリスニングでは、外国人が日本で不思議に思う事を題材に取り上げ、諸外国の方が興味を持つ多くの話題に触れます。
 様々な方向に話を膨らませられるようになる事と、これらの旅行業界で求められるおもてなしの精神や、コミュニケーション能力を養う事を到達目標とします。

●授業内容・授業計画

- 第1回 ガイダンス (木曜日)
- 第2回 大阪の魅力 講義 (木曜日)
- 第3回 日本庭園 講義 (木曜日)
- 第4回 日本庭園 ☆学内プレゼンテーション/英語で発表☆ (木曜日)
- 第5回 古墳 講義 (木曜日)
- 第6回 古墳 ☆学内プレゼンテーション/英語で発表☆ (木曜日)
- 第7回 住吉大社 講義 (木曜日)
- 第8回 住吉大社 ★現地実習/英語で発表★ (日曜日)
- 第9回 四天王寺 講義 (木曜日)
- 第10回 四天王寺 ★現地実習/英語で発表★ (日曜日)
- 第11回 茶道 講義 (木曜日)
- 第12回 大阪城 講義 (木曜日)
- 第13回 大阪城 ★現地実習/英語で発表★ (日曜日)
- 第14回 大阪南 講義 (木曜日)
- 第15回 まとめ

<注意事項>

★現地実習 は、全3回で日曜日に行います(日時については第一回ガイダンスでお知らせします)。

- ①住吉大社 ②四天王寺 ③大阪城

☆学内プレゼンテーション は、全2回で木曜日に行います。

①日本庭園 ②古墳

●事前・事後学習の内容

普段から、以下の事を心がけるようにして下さい。

- ・あらゆる分野において、日本と諸外国の違いに関心を持つ。
- ・日常生活の中で感じる事を英語で表現する習慣を身につける。
- ・英語を聞く時間をつくる。(ニュース、日本文化についてのドキュメンタリー番組等)

●評価方法

全5回のプレゼンテーション(英語で発表)、授業中の学習意欲、出席率を通して総合的に評価をします。

最後の授業では、まとめと記述式試験も行う予定です。

●受講生へのコメント

諸外国の方の目線で日本の見所を探ります。

幅広い年齢層の生徒が、意見交換や情報共有をしながら、日本文化発信に必要な知識や英語力を身につけます。

生徒による全5回のプレゼンテーション(各回英語で5分以内の発表)では、全員の案内を聞いて良いところを学び、講師(現役全国通訳案内士)がアドバイスをします。

受講生が知識を共有し、意見交換をする機会もつくります。

●参考文献・教材

授業で使用する、独自のテキストを購入してもらう予定です。

適宜参考資料も配布します。

授業科目名	科目NO.	GEHIS0128	授業コード	G016140010	
英語で学ぶ日本事情 Japanese Culture in English			単位数	2単位	
授業形態	担当教員名				
講義	坂 知尋				

●**科目の主題**

This course introduces Japanese religions, art and culture, from the ancient period through the twentieth century. Taking a historical and interdisciplinary approach, it aims to achieve an in-depth understanding of Japanese culture. It will examine religious traditions such as Shinto and Buddhism, and various forms of religious practice, including ritual and pilgrimage. It will further examine Japanese visual culture, focusing on sculpture, narrative picture scrolls, religious paintings, and ukiyo-e prints.

●**到達目標**

In this course students will gain an in-depth understanding of Japanese culture and become familiar with some of representative examples of Japanese art.

●**授業内容・授業計画**

Week 1: Introduction, religions in contemporary Japan

Week 2: Religious traditions I (Shinto, Folk religion, Christianity)

Week 3: Religious traditions II (Buddhism)

Week 4: Sculptures I (Iconography, sculptures from the Asuka and Nara periods)

Week 5: Sculptures II: (Sculptures from the Heian and Kamakura periods)

Week 6: Sculptures III: (The development of sculptures after the Kamakura period)

Week 7: Depictions of the Afterlife

Week 8: Gender, Sexuality, and Family Relations in Japanese Hell Imagery

Week 9: Ritual Performances

Week 10: Pilgrimages

Week 11: Narrative Picture Scrolls (emaki)

Week 12: Genre Paintings

Week 13: Art of Mountain Worship

Week 14: Summary

●**事前・事後学習の内容**

(1) Review lesson content after class;

(2) Submit comments after class;

(3) All students are required to visit a museum exhibition to write an essay related to it.

●**評価方法**

Comments and discussions = 70%

An essay 30%

●**受講生へのコメント**

It is desirable that students visit museums during the course to view original works.

●**参考文献・教材**

● Main textbook:

Tsuji Nobuo. History of Art in Japan. Columbia University Press, 2019.

● Other relevant books:

辻惟雄 『日本美術の歴史』 東京大学出版会、2005年

授業科目名	科目NO.	LBPSY3214	授業コード	L222160010	
文化心理学特論 Special Studies in Cultural Psychology			単位数	2単位	
授業形態	担当教員名				
講義	山 祐嗣				

●**科目の主題**

認知心理学、進化心理学、文化心理学という視点から、さまざまな研究を紹介し、文化の創生と文化的適応の人間の合理性について追及する。

●**到達目標**

認知心理学、進化心理学、文化心理学という視点から、認知の文化的適応についての理解を深め、自分で問題を追及する資質を涵養する。

●**授業内容・授業計画**

授業はWebClassを使用して遠隔で行う。前半は主として適応一般の概念について、後半は文化的適応と文化多様性について解説する。

1-15回

1. 適応とは何か
2. 進化心理学 認知の進化
3. 二重過程理論
4. 文化とは何か
5. 適応という視点からの認知
6. 文化的多様性の始まり
7. 文化心理学とは何か
8. 個人主義と集団主義1
9. 個人主義と集団主義2
10. 自己と文化
11. 認知と文化1
12. 認知と文化2
13. 東洋人の弁証法
14. 文化の伝達・伝播

●**事前・事後学習の内容**

事前学習として、授業中の配布や資料参考書を読み、事後学習として、これらの復習を行ったり授業中に紹介した書籍・文献を読んだりすることが推奨される。

●**評価方法**

期末試験において成績を評価する。

●**受講生へのコメント**

心理学においては、実際に実験や調査がどのように行われているのか実際に体験することが重要である。本講においても、時々デモあるいは、実験・調査が行われるが、参加してほしい。

●**参考文献・教材**

参考文献

増田貴彦・山岸俊男 「文化心理学(上)(下)」培風館 2010

山 祐嗣 「日本人は論理的に考えることが本当に苦手なのか」 新曜社 2015

授業科目名	科目NO.	GEHIS0129.CO	授業コード	G010510010	
歴史のなかの大阪 History of Osaka				単位数	2単位
授業形態	担当教員名				
講義	磐下 徹				

●科目の主題

「大阪の古代史」

政治・経済の拠点としての大阪は、豊臣秀吉の大坂城築城以降とイメージされることが多い。

しかし、上町台地を中心とした大阪の地の重要性は、古墳時代にさかのぼって認められるものである。

本講義では飛鳥・奈良時代（7～8世紀）を中心とした大阪の古代史を、具体的な遺跡・遺物（資料）に即しながら講じたい。

●到達目標

古代の政治・社会における上町台地を中心とした大阪の地の位置づけについて理解を深める。

あわせて、資料（史料）に即した実証的な歴史学の思考法を身につける。

●授業内容・授業計画

第1回 ガイダンス

第2回 難波宮前史

第3回 難波宮の構造と特質

第4回 難波宮と大化改新

第5回 木簡からみた難波宮

第6回 古代の大阪と仏教

第7回 行基の事績

第8回 行基集団と地域社会

第9回 河内地方の古代仏教

第10回 船王後墓誌について(大阪の古代金石文①)

第11回 船王後墓誌と古代の社会

第12回 石川年足墓誌(大阪の古代金石文②)

第13回 石川年足墓誌と近世の「古代学」

第14回 まとめ

*講義内容は受講者の理解度に応じて変更することもある。

講義は配布プリントにもとづいた講義形式で進める。

また、リアクションカードに質問や感想などを書いてもらうことがある。

なお、講義内容は受講者の理解度等に応じて変更することがある。

●事前・事後学習の内容

事前学習

配布したプリント等に目を通し、分からない語句などがあれば辞典類を使って調べておく。

事後学修

プリントやノートを読み返して講義内容を整理し、それに対する自分の意見・考えをまとめておく。

そのほか、講義中に紹介された参考文献等を各自の判断で適宜目を通しておく。

●評価方法

期末の筆記試験と受講態度を総合的に勘案して評価する。

試験では講義内容の理解度と、それらを踏まえた自らの見解を論理的に記述できているかを問う。

●受講生へのコメント

大学の歴史学の講義は暗記科目ではない。

一方的に講義を聴くだけでなく、講義内容を理解した上で自分なりの考えを持てるよう、積極的な姿勢で毎回の授

業に臨んでほしい。

また、大阪をテーマとした講義なので、とりあげられた遺跡や関連する展示のある博物館等に足を運んでほしい。

●**参考文献・教材**

毎回プリント・資料を配布し、それに即しながら講義を進める。

参考文献等に関しては必要に応じてその都度指示する。

授業科目名	科目NO.	GELIB0115.CO	授業コード	G016201010	
観光研究入門 Introduction to Tourism Studies			単位数	2単位	
授業形態	担当教員名				
講義	天野 景太				

●科目の主題

「グローバル化・ボーダレス化社会における現代観光のナゼ？」をテーマとした観光研究に関する導入的な科目です。観光の歴史と現在に関して概観した後、それらを研究するための視点と方法に関して検討する。前半（第2～7回）は、観光の歴史的展開や、観光という現象が現代社会において成立している背景に関して考察します。後半（第8～10回）は、現代日本の国内・国際観光の実態に関して、各種の調査データ等に基づきつつ概観します。後半（第11～14回）は、観光研究の視点と方法に関して、人文・社会科学的なアプローチを中心として、いくつかの具体的な研究成果を紹介しつつ説明します。

●到達目標

21世紀は「観光の世紀」と謳われ、多方面から着目されています。その反面、感染症の世界的流行を前に、社会的距離を縮めた直接的な人的交流をその最大の「ウリ」としていた観光は、一瞬にして脆くも窮地に陥りました。このような中で、安易に時流に飲まれたり、目先の現象だけに囚われたりすることなく、総合的（幅広い視野から）、相対的（距離をおいて）に、観光現象の本質を捉えるセンスを持てるようにします。

●授業内容・授業計画

この授業は遠隔（標準手順：発展）により実施します。授業時限までに教材をWebClassにアップするので各自確認の上、受講を進めてください。

第1回: ガイダンス

第2回: 「観光」とは何か～観光を定義する

第3回: 旅と観光の社会史Ⅰ～古代から近世に至るまでの“旅人”の相克

第4回: 旅と観光の社会史Ⅱ～近代マス・ツーリズムの誕生

第5回: 旅と観光の社会史Ⅲ～近代マス・ツーリズムの展開とポスト・マス・ツーリズム

第6回: 現代観光を支える社会のしくみ～多文化の繋留・混交点としての駅・空港・世界都市…

第7回: 観光地はなぜ「観光地」なのか～観光地イメージの構築と、観光資源の類型

第8回: 現代日本人の観光スタイルを探る～国際観光アウトバウンド編

第9回: 日本を訪れる外国人観光客の特徴～国際観光インバウンド編

第10回: 観光政策の役割、パンデミックと観光のゆくえ

第11回: 観光研究の視点と方法Ⅰ～観光者の心理と行動をつかむ(観光心理学)

第12回: 観光研究の視点と方法Ⅱ～自然景観や文化表象の意味や価値をめぐって(観光人類学・文化経済学)

第13回: 観光研究の視点と方法Ⅲ～観光地域をデザインする(観光まちづくり論)

第14回: 観光研究の視点と方法Ⅳ～楽しみ(愉しみ)方をデザインする(観光メディア論)

講義形式で展開し、毎回写真や映像資料など、ビジュアルな資料を豊富に提示する予定です。板書は基本的に行わないので、内容をリアルタイムに考察、整理しながらメモ等をとっていき姿勢が求められます。

●事前・事後学習の内容

日頃から主体的に新聞やテレビに接し、観光に関するニュースに親しんでおくこと。また、授業後、その日の授業内容に関して文章化し、自分の考えとともにノートにまとめておく和良好的です。また、日頃から主体的に身近な観光体験を客観的に考えてみる習慣をつけてください。

●評価方法

毎回授業の最後に、コミュニケーションペーパーにその日の授業内容を受けての自らの考察、感想を記してもらいます。コミュニケーションペーパーへの回答による平常点(40%)、と期末レポート(60%)で評価します。なお期末レポートは、対面での試験実施が可能となれば、それに変更する可能性があります。なお、コミュニケーションペーパー

への回答数(≒出席数)が通算で11回未満の場合、原則として評点にかかわらずF評価となります。なお、正課授業の課外活動、病気、就職活動等やむを得ず欠席する場合、出席回数への配慮はしますが、平常点の加点はしません。

●**受講生へのコメント**

観光研究は、その制度的側面(法学)、経済・経営的側面(商学・経済学)、社会・文化的側面(社会学・文化論)、工学的側面(地域・景観計画)、福祉・医療的側面(ソーシャル・ツーリズム)など、さまざまな視点からの学際的なアプローチが要請されている研究分野です。旅行が好きの人、将来観光に関連する進路を目指す人、ゼミ等で観光分野の研究を志向する人をはじめ、幅広い学部からの履修を歓迎します。ただし、例年すべての回に出席した受講生であっても不合格者は一定数出ています。毎回、真剣勝負で講義に向き合い、考察を試み続けていなければ、テストには太刀打ちできないでしょう。心してください。質疑応答は、本科目の開講時限に文学部棟の科目担当者の研究室において対面に対応します。

●**参考文献・教材**

安福恵美子・天野景太『都市・地域観光の新たな展開』古今書院、2020年。ほか参考文献は、教場において逐次紹介します。また、毎回教場にてプリントを配布します。原則として過去の授業で使用したプリントの再配布はしません。

授業科目名	科目NO.	GEHIS0123.CO	授業コード	G016240010	
観光と文化 Tourism and Culture				単位数	2単位
授業形態	担当教員名				
講義	天野 景太				

●科目の主題

世界文化遺産に象徴される歴史的な建造物や芸術作品を鑑賞したり、国際的なイベントに参加したり、テーマパークで映画に登場するキャラクターと出会ったり、民芸品を土産として購入したりなど、地域の文化との接触・交流を目的とした観光（文化観光）は、自然観光と並び現代の観光形態の主流をなしています。観光対象としての文化は、過去から現在に至るまでのその地域における人間活動の記録・記憶の象徴から、観光目的で新たに創造されたものまで、さまざまです。本科目では、こうした“文化”が、どのように観光資源化され、演出され、観光客に対して呈示されているのか、また、文化の観光化に伴う地域文化の変容が、地域の人々にとって、観光者にとって、どのような影響を及ぼすのか、といった視点から、観光と文化の関わりについて、具体例を挙げながら検討していきます。

●到達目標

自らの観光体験や異文化体験を本科目で解説された内容を参考にしながら、分析・考察出来るようになります。文化の観光化のあり方を理解することを通じ、自らが拠り所としている文化を相対化して捉え、他者に呈示する（例：外国の友人に日本文化を紹介する・日本の文化的観光資源をガイドする、など）ためのスキルの基礎が身につきます。

●授業内容・授業計画

この授業は遠隔（標準手順：発展）により実施します。授業時限までに教材をWebClassにアップするので各自確認の上、受講を進めてください。

第1回：ガイダンス

第2回：観光と文化とのかかわり～“世界遺産観光”の展開を例に

第3回：観光と文化遺産Ⅰ～世界遺産の概要と世界遺産検定ガイダンス

第4回：観光と文化遺産Ⅱ～文化の継承と遺産の制度化・商品化

第5回：観光における生活文化・民族文化の呈示と消費の諸相Ⅰ

第6回：観光における生活文化・民族文化の呈示と消費の諸相Ⅱ

第7回：観光における宗教文化の呈示と消費の諸相

第8回：観光における都市文化の呈示と消費の諸相

第9回：観光アトラクションの文化史Ⅰ「タワー」

第10回：観光アトラクションの文化史Ⅱ「遊園地とテーマパーク」

第11回：観光アトラクションの文化史Ⅲ「観光鉄道とクルーズ船」

第12回：観光アトラクションの文化史Ⅳ「温泉旅館とホテル」

第13回：観光アトラクションの文化史Ⅴ「リゾート」

第14回：観光アトラクションの文化史Ⅵ「土産品」

授業は講義形式で行います。加えて写真や旅番組やCM等の映像、観光ガイドブックやWEBサイトなど、ビジュアルな資料を豊富に提示します。板書は基本的に行わないので、講義内容をリアルタイムに考察、整理しながらメモ等をとっていくことが求められます。

●事前・事後学習の内容

日頃から主体的に新聞やテレビに接し、観光に関するニュースに親しんでおくこと。また、授業後、その日の授業内容に関して文章化し、自分の考えとともにノートにまとめておくことです。また、日頃から主体的に身近な観光体験を客観的に考えてみる習慣をつけること。

●評価方法

毎回授業の最後に、コミュニケーションペーパーにその日の授業内容を受けての自らの考察、感想を記してもらいます。そのコミュニケーションペーパーへの回答への評点（40%）と、期末レポート（60%）で評価します。期末レポートは試験の対面実施が可能となった場合、試験に変更となる可能性があります。ただし、コミュニケーションペーパー

への回答数(≒出席数)が通算で11回未満の場合、評点にかかわらず原則としてF評価となります。なお、正課授業の課外活動、病気、就職活動等やむを得ず欠席する場合、出席率への配慮はしますが、平常点の加点はしません。なお、例年コミュニケーションペーパーの評点が高い者でも、一定数の不合格者が出ています。毎回真剣勝負のつもりで授業に臨み、考察を試み続けていなければ、期末試験には全く太刀打ち出来ないでしょう。心してください。質疑応答は、本科目の開講時限に文学部棟の科目担当者の研究室において対面に対応します。

●**受講生へのコメント**

授業内容に関連する検定試験として「世界遺産検定」を本学で実施予定ですが、それに関連するガイダンスと申込受付を授業内で行います。世界遺産や就職に向けての資格取得に興味のある者は受験を推奨します。また、観光に関してより理解を深めたい者は、「観光研究入門」や、文学部の「観光文化論」「文化資源特論Ⅰ」等を併せて履修するとよいです。

●**参考文献・教材**

安福恵美子・天野景太『都市・地域観光の新たな展開』古今書院、2020年。ほか、毎回教場にてプリントを配布します。原則として過去の授業で用いたプリントの再配布はしません。

授業科目名	科目NO.	GEHIS0106.CO	授業コード	G016250010	
アーツマネジメント Arts Management				単位数	2単位
授業形態	担当教員名				
講義	菅原 真弓				

●科目の主題

劇場の公演や美術館の展覧会、そして音楽会。こうした文化施設で行われる事業に加え、それ以外の芸術文化活動を含めた活動を、広く社会に発信していくための「仕組み」＝方法論をアーツマネジメントという。近年は演劇や美術、音楽などのファインアート（ハイアート）分野にとどまらず、広い意味での創造活動を発信する方法論をも指す言葉となった。

地域活性化（まちづくり）の手法としても活発に行われている。本講義では、この言葉が欧米において登場した経緯から日本への流入、そして日本での独自の発展までを、事例を挙げながら学んでいく。

●到達目標

アーツマネジメントに関する実践的な知の習得を目標とする。但し、必ずしもアーツマネジメントの実践者を養成するための学びには限定せず、この学びを通じて、自らの学問的専門分野に生かせる気づきを得、自らの視野を広げるための眼を養ってもらいたい。

●授業内容・授業計画

美術館学芸員であった経験を基に、主に美術分野における様々な事例を挙げて詳説する。美術館での教育普及事業やイベント、地域アートプロジェクトやこれらと観光との接点（アートツーリズム）について、またこれに加えて、地域活性化の手法としてのアーツマネジメントなども併せて紹介する。後半はグループワークを実施し、グループでの企画を構想し、プレゼンテーションを行ってもらう。

第1回 イントロダクション:アーツマネジメントとは何か

第2回 「アーツマネジメント」の登場と日本への流入

第3回 日本におけるアーツマネジメントのはじまり:芸術文化支援制度の整備

第4回 狭義のアーツマネジメント:美術館で行う事業を例に

第5回 広義のアーツマネジメント:芸術文化の社会への発信

第6回 キーワードは「連携」:文化庁芸術文化振興基金のテーマ変遷を踏まえて

第7回 地域におけるアートプロジェクトの事例

第8回 外部講師によるレクチャー:アートプロジェクトの事例

第9回 外部講師によるレクチャー:地域資源、地域産業遺産とその活用

第10回 地域アートプロジェクトを作る！1:グループワークの趣旨説明とグループ分け

第11回 地域アートプロジェクトを作る！2:グループワーク

第12回 地域アートプロジェクトを作る！3:グループワーク

第13回 地域アートプロジェクトを作る！4:グループワーク

第14回 地域アートプロジェクトを作る！5:プレゼンテーション準備およびプレゼンテーション

第15回 地域アートプロジェクトを作る！5:プレゼンテーション、まとめ

●事前・事後学習の内容

授業前学習は特に必要としないが、授業後は、自ら住まう地域に加えて大阪市、大阪府内、また広く近畿圏で行われているアートプロジェクト（広い意味で）に関心を持ち、報告書などを自ら読み、その成果と問題点について考察すること。参考文献等は、授業内で紹介する。

●評価方法

小レポート（コミュニケーションシート3回程度）とグループワークの成果をもって評価する。グループワークの成果とは①グループワークでの発言など参加度②プレゼンテーションに用いるレジюмеとプレゼンテーション資料（提出）

③グループワークを終えての気づき（果たした役割）を記したレポートを指す。

●**受講生へのコメント**

講義科目ではあるが、後半はグループワークを実施するので、自主的主体的な授業参加を求める。また日ごろからアートプロジェクト等に関心を持ち、文化施設に赴いてみることを希望する。

●**参考文献・教材**

授業内でプリントを配布する。また、必要に応じて、授業内で参考文献などを紹介する。